

学校組織の基本的な構造について

東京学芸大学
准教授

教職大学院
浅野 あい子



Gakugei 東京学芸大学
Tokyo Gakugei University

本講座の内容

1. 学校組織とは
2. 内部の連携「校務分掌組織」
3. 外部との連携「チーム学校」
4. 個々の教員と学校組織

1. 学校組織とは

学校が組織である背景

学校教育にとって 変わることはない 普遍的な課題	◇ 学力の向上 ◇ 規範意識の醸成 ◇ 体力の向上
--------------------------------	---------------------------------

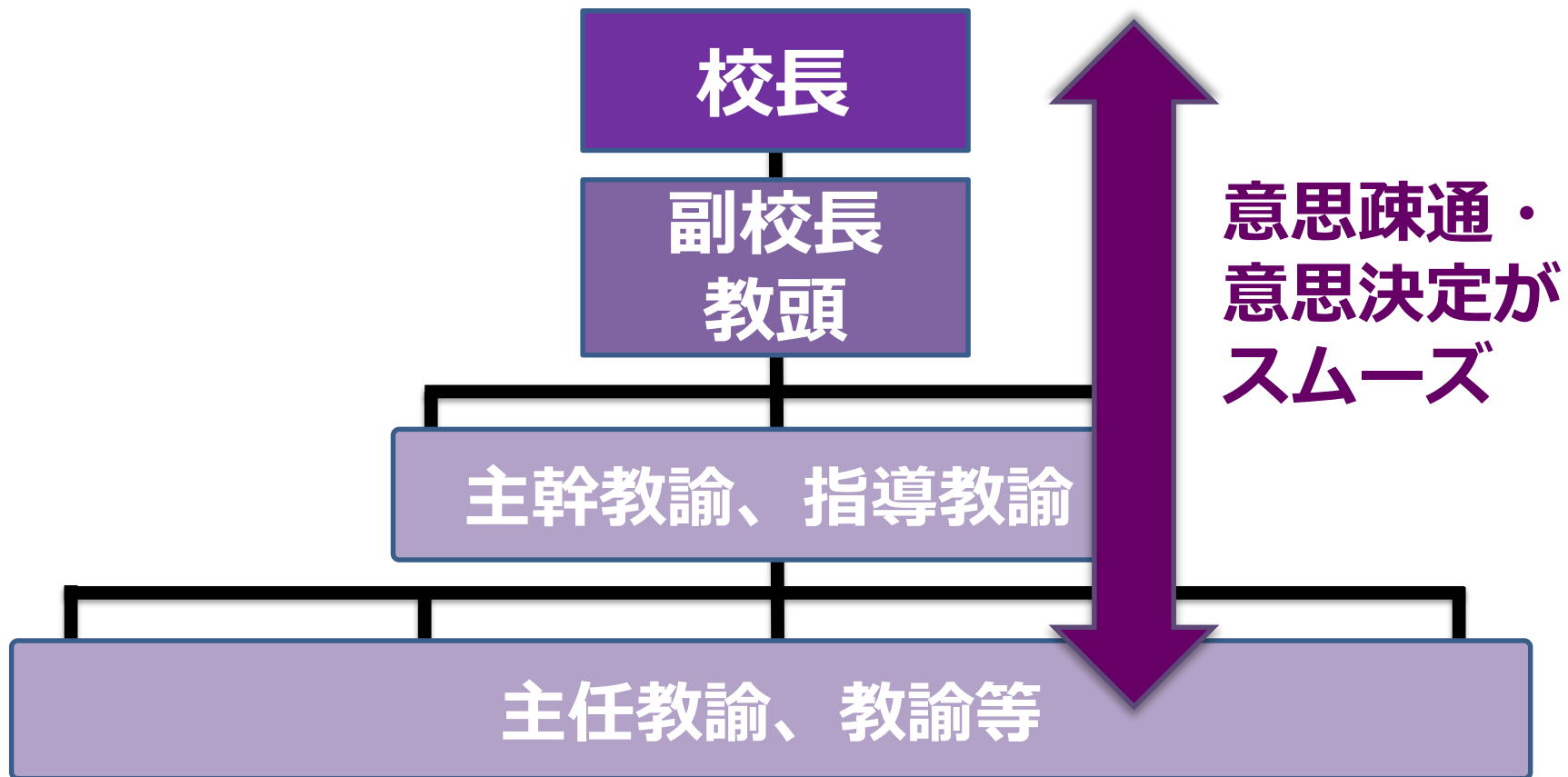
グローバル化、 情報化、少子高齢化 など急激な社会や 時代の変化に伴う 新たな課題への対応	◆ いじめ問題への対応 ◆ 児童虐待への対応 ◆ 新学習指導要領への対応 ◆ 特別支援教育への対応 ◆ 情報教育への対応 ◆ 地域や社会との連携・協働 ◆ 保護者の要望・苦情への対応 等
-----------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------

学校を取り巻く課題が多様化・複雑化



**学校教育目標の実現に向けて
課題解決に組織的に取り組まなければならない。**

学校組織の構造



校長の責任のもと、教職員が一体となって
学校教育目標の実現を目指す。

「学校組織」に関するQ&A

Q. 新たな職である「主幹教諭」「指導教諭」とは、どのような役割を担っているのですか。

A. 主幹教諭…実践者と管理職両方の立場から組織改革を推進
指導教諭…校内研修や授業研究の組織化をリード

特に主幹教諭は、管理職・一般職員双方とコミュニケーションを円滑にとりながら、ミドルリーダーとしてミドルアップダウンマネジメント※を推進するなど、学校組織の中核的な存在として力を発揮しています。

※ミドルアップダウンマネジメントの一例

管理職のビジョンと、子どもの指導にあたる教員からの情報をもとに現状を分析・統合して新たな方向性を見いだし管理職に提案、他の教職員を巻き込みながら実践化を図る。

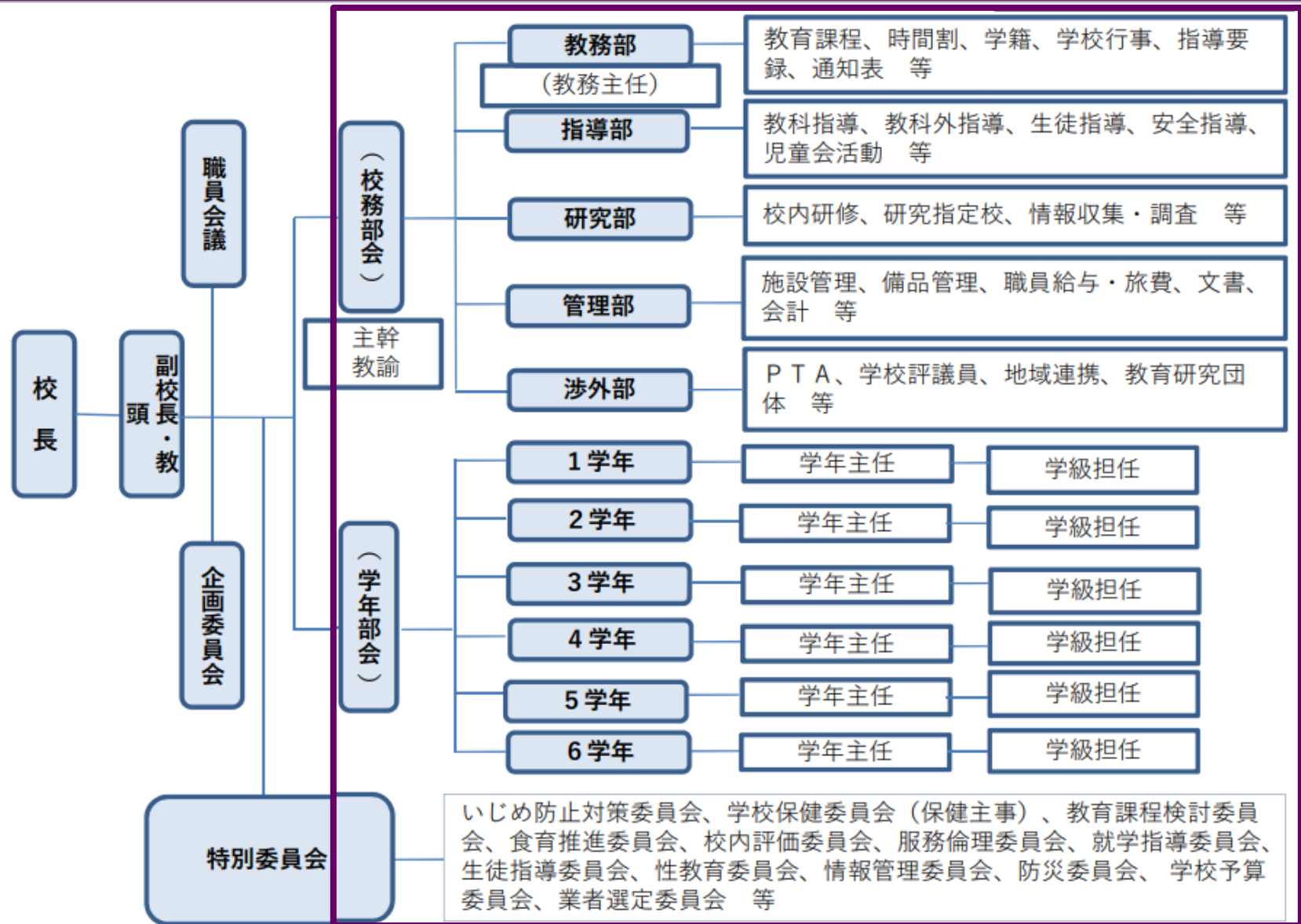
2. 内部の連携「校務分掌組織」

校務分掌とは

- 校長の責任の下、学校教育目標の実現を目指して日々の教育活動が展開されている。
- 学校教育に関わる業務については、各学校において校内組織を定め、教職員が分担して処理することとされている。これを「**校務分掌**」という。

- ◆校務を分担して着実かつ効率的に遂行
- ◆適切な役割分担と連携によって組織としての機能を発揮させ、学校全体の組織力の向上につなげている。

校務分掌組織例（小学校の場合）



分掌の責任者（主任）

- ◇教務主任
- ◇学年主任（各学年1名）
- ◇道徳教育推進教師
- ◇特別支援教育コーディネーター
- ◇研究主任
- ◇部活動担当
- ◇外国語担当（中核教員）
- ◇不登校担当
- ◇学校安全担当
- ◇人権教育担当
- ◇情報セキュリティ・システム担当
- ◇地域連携担当 等

主任同士で
情報を共有し、
分掌チームが
連携しながら
校務を遂行

学校において設置する担当者で、法令、通知、答申、報告書等（主に文部科学省）から出されているもの）に根拠があるものより抜粋

各教員は複数の分掌組織に所属

例) 小学校A教諭の場合

学級担任 (授業・学級経営・学級事務等)

学年部会 (学年主任)

教科部会

研究部 (校内研修)



特別支援教育
コーディネーター

学校HP担当

人権教育推進委員会

- ◆各教員が複数の分掌組織 (チーム) に所属
- ◆チーム内で連携・協働して校務を遂行

「校務分掌」に関するQ&A

Q. 学校を取り巻く課題が複雑化・多様化するなか、教員の仕事は増える一方ではないでしょうか。どのような対策が講じられていますか。



A. 各学校では次のような取組を推進しています。

- **分掌の整理・合理化**

「スクラップ・アンド・ビルドの考え方」に基づく分掌組織の積極的な統廃合

- **会議のスリム化**

職員会議の適正な運営、企画調整会議等の活用

- **学校運営を支える機能の充実**

様々な専門職や外部の力の活用・連携による学校全体の総合力の向上

3. 外部との連携「チーム学校」

「チーム学校」とは

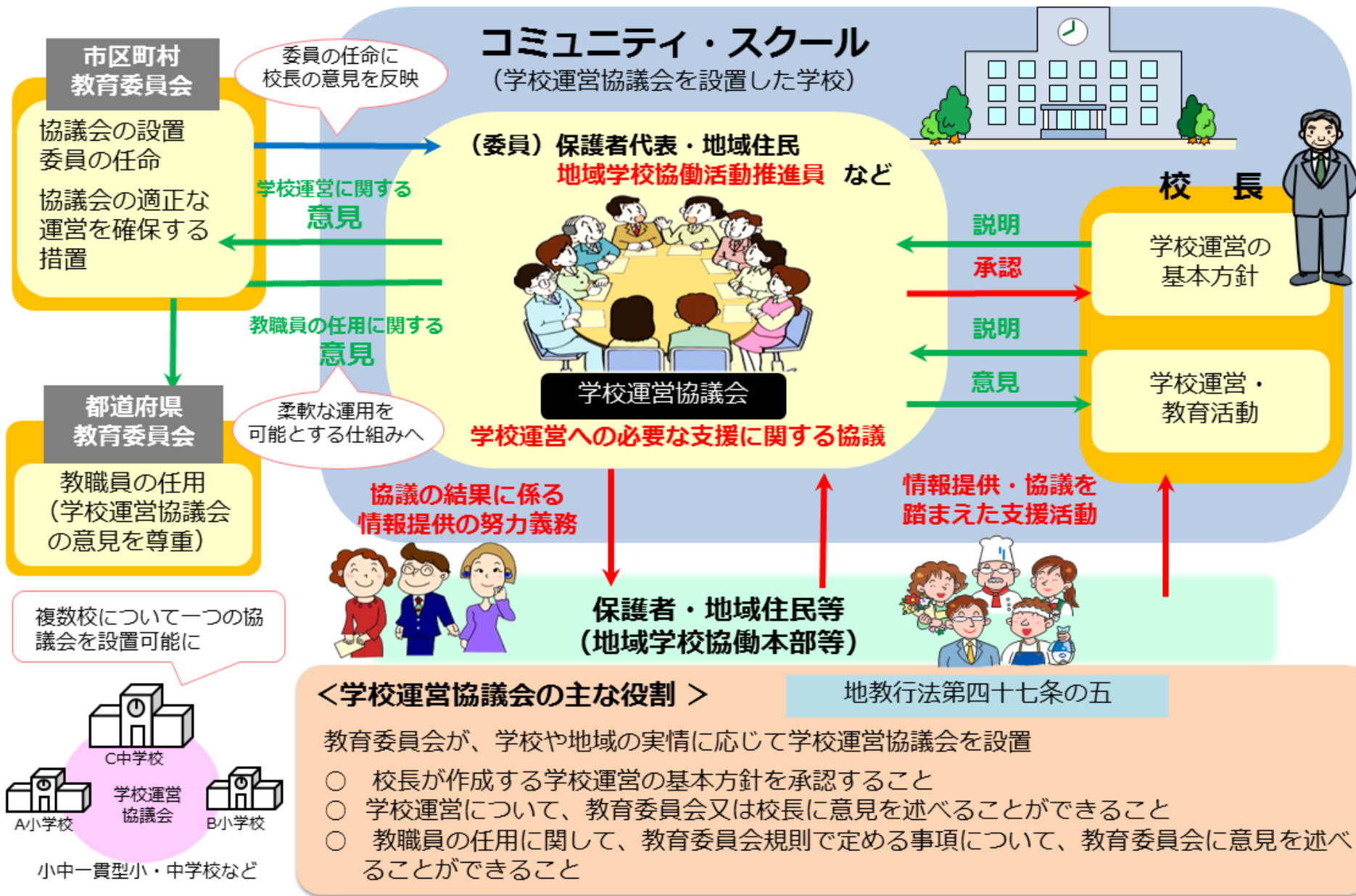
- 「社会に開かれた教育課程」の理念の実現
- 保護者や地域の人々**を巻き込み、教育活動を充実
- 外部の**専門家や専門機関との連携・分担**
- 個々の教員が個別に教育活動に取り組むのではなく、校長のリーダーシップの下、学校のマネジメントを強化し、**組織として教育活動に取り組む。**

学校内部の教職員はもちろんのこと、多様な背景を有する外部の人材が各々の専門性に応じて運営に参画することで、学校の教育力・組織力を効果的に高めていく。

例) コミュニティ・スクール

- 学校として「どのような子供たちを育てるのか」「教育活動を通して何を実現していくのか」という目標やビジョンを地域住民等と共有し、地域と一体となって子どもたちを育む。
- 地域の人々等で構成される「**学校運営協議会**」が設置されている。校長が作成する学校経営方針を承認したり、学校運営について意見を述べたりすることができる。
- 学校運営に地域の声を積極的に生かし、地域と一体となって特色ある学校づくりを進めていくことができる制度。

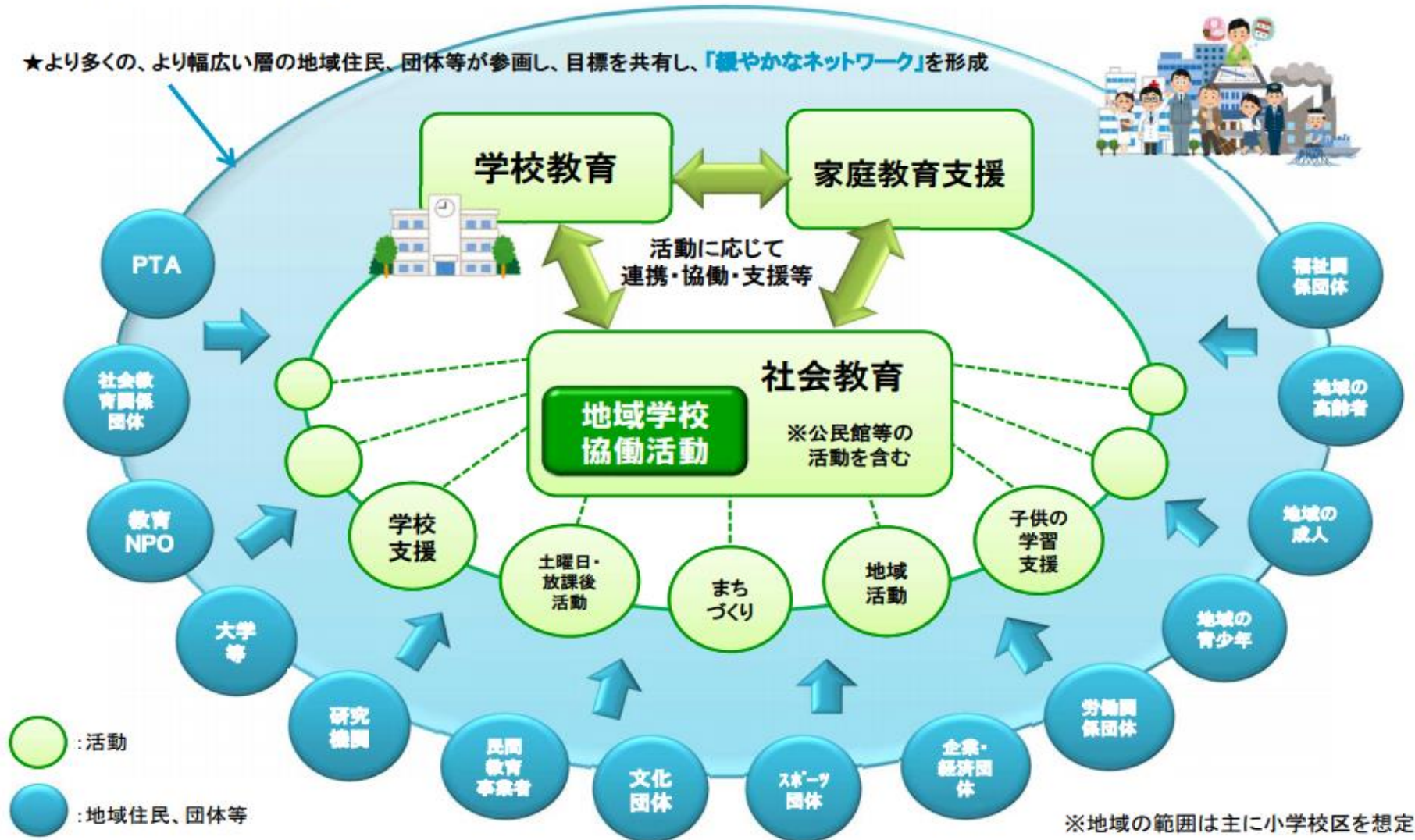
コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)の仕組み



例) 地域学校協働活動

- ◎ 次代を担う子供に対して、どのような資質を育むのかという目標を共有し、地域社会と学校が協働。
- ◎ 従来の地縁団体だけではない、新しいつながりによる地域の教育力の再生・充実は、地域課題解決等に向けた連携・協働につながり、持続可能な地域社会の源となる。

★より多くの、より幅広い層の地域住民、団体等が参画し、目標を共有し、「緩やかなネットワーク」を形成



例) 地域学校協働活動

- 地域の高齢者、成人、学生、保護者、PTA、NPO、民間企業、団体・機関等の幅広い地域住民等の参画を得て、**地域全体で子どもたちの学びや成長を支える。**
- 「**学校を核とした地域づくり**」を目指して、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行う。
- 子どもの成長を軸として意見を出し合い学び合う中で、**地域の将来を担う人材を育成**する。
- 地域住民のつながりを深め、自立した地域社会の基盤の構築・活性化を図る「**学校を核とした地域づくり**」を推進、**地域の創生につなげていく。**

地域の教育力の再生・充実を図り、
連携や協働を持続可能な地域社会の源にしていく。

4. 個々の教員と学校組織

個々の教員と学校組織

授業、学級経営、生徒指導、部活動指導、
校務分掌、保護者対応、地域との連携 等々



教員一人一人が、教育活動その他の取組を通して
学校教育目標の実現を目指す。



学校は組織であり、教員は学校組織の一員である。

学校組織の一員として必要な力

- ◆ 学校教育目標の実現に向けて、周囲の人たちと円滑にコミュニケーションを図り、連携・協働する力
- 教職員、保護者、地域の方々、外部人材、外部機関等「子どもたちのために」という思いを共有する。
- 多様なアプローチの方法やアイデアを共有しながら、よりよい方策を見いだしていく。
- 相手の立場に立ち、思いや考えを受け止め、自分の考えを分かりやすく伝えること。
- 組織の一員として何ができるか、常に貢献しようという姿勢をもって実践すること。

本講座のまとめ

おわりに

- ◆学校はチームである。教職員は互いに助け合い、連携しながら日々の教育活動や校務を遂行している。
- ◆学校教育目標の実現に向けて、保護者や地域、外部人材、外部機関と連携・協働している。
- ◆授業、学級経営、校務全般など、教員一人一人の取組が学校全体の取組へとつながっている。

学校組織はまさに「all for one, one for all」である。

引用・参考文献

- ◇小学校学習指導要領（平成29年告示 文部科学省）
- ◇中学校学習指導要領（平成29年告示 文部科学省）
- ◇文部科学省ホームページ
 - ・学校と地域でつくる学びの未来 School Home Community
 - ・学校における働き方改革特別部会配布資料
（平成29年10月20日）